

第2回

鳥取駅周辺再整備に係る四者連携協議会

- ・日 時：令和6年11月15日（金）
15：00～
- ・場 所：市役所本庁舎7階全員協議会室

次 第

1 開 会

2 副市長あいさつ

3 議 題

- (1) 鳥取駅周辺再整備に向けた取組状況について
 - 1) 鳥取駅周辺再整備の推進体制
 - 2) サウンディング型市場調査
 - 3) 鳥取駅周辺交通実態調査（別添1）
 - 4) 若者や子育て世代を対象にしたワークショップ
 - 5) 鳥取駅周辺リ・デザイン市民フォーラム
 - 6) 第1回駅まち空間デザイン検討部会
- (2) 整備コンセプトについて

4 その他

5 閉 会

配布資料一覧

No.	資料名
—	第2回 鳥取駅周辺再整備に係る四者連携協議会次第、名簿、席次表
1	第2回 鳥取駅周辺再整備に係る四者連携協議会資料（資料1）
2	鳥取駅周辺交通実態調査結果（別添1）
3	鳥取駅周辺再生基本計画（概要版）

第2回 鳥取駅周辺再整備に係る四者連携協議会 名簿

所属・役職	氏名
鳥取県副知事	<small>かめい かずよし</small> 亀井 一賀
鳥取市副市長	<small>はば きょういち</small> 羽場 恭一
西日本旅客鉄道株式会社山陰支社 副支社長	<small>わだ しょうじ</small> 和田 昇司
鳥取商工会議所副会頭	<small>おか しゅういち</small> 岡 周一

資料1

第2回 鳥取駅周辺再整備に係る四者連携協議会資料
令和6年11月15日

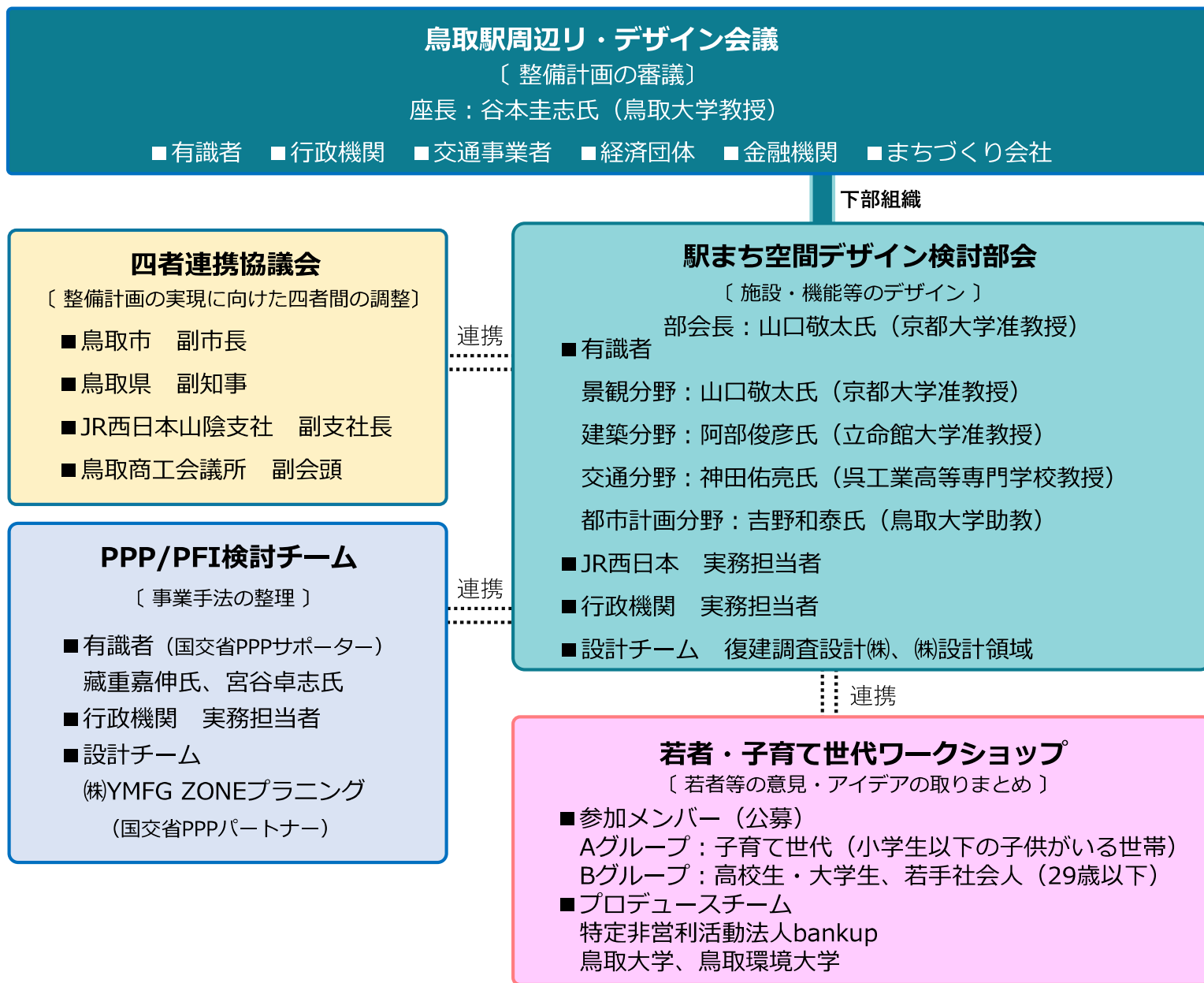
(1) 鳥取駅周辺再整備に向けた取組状況について

1) 鳥取駅周辺再整備の推進体制	・・・・・・・・P1 - 2
2) サウンディング型市場調査	・・・・・・・・P3 - 5
3) 鳥取駅周辺交通実態調査	・・・・・・・・別添1
4) 若者や子育て世代を対象としたワークショップ	・・・・・・・・P6 - 8
5) 鳥取駅周辺リ・デザイン市民フォーラム	・・・・・・・・P9
6) 第1回駅まち空間デザイン検討部会	・・・・・・・・P10 - 16



1) 鳥取駅周辺再整備の推進体制

○今後、基本計画に基づき、市民や民間事業者、関係機関などと連携を強化し、より具体的な整備計画の策定、再整備に向けて取り組む。

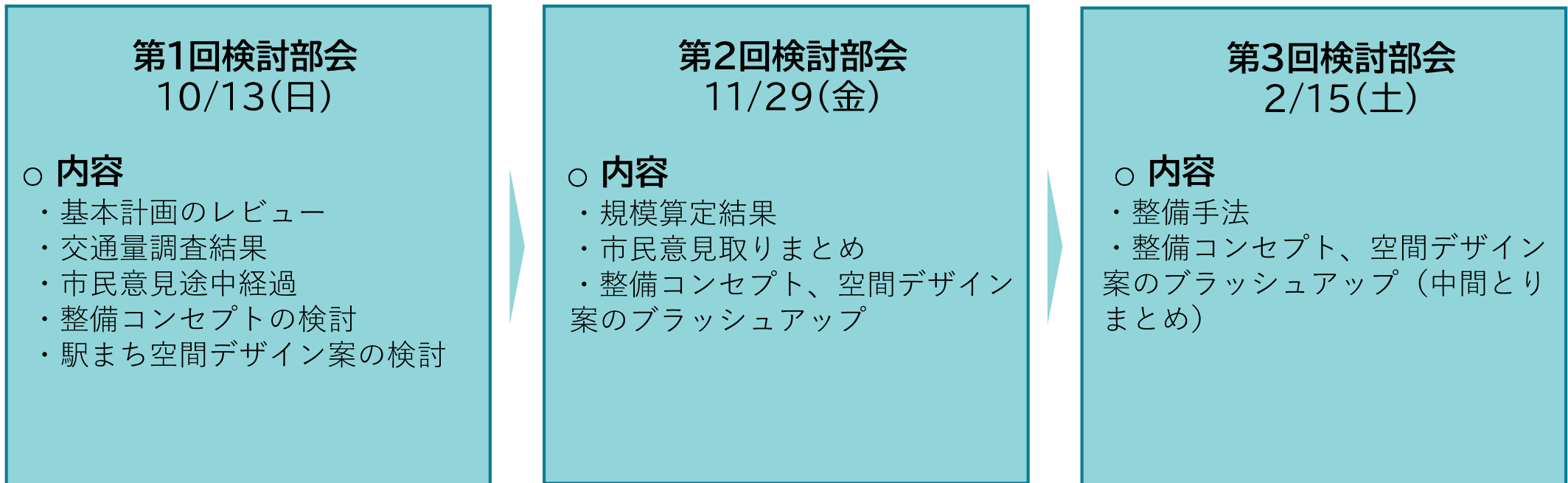


1) 鳥取駅周辺再整備の推進体制

■ 駅まち空間デザイン検討部会の設置について

- 本部会は、鳥取駅周辺リ・デザイン会議の下部組織として設置。
- 鳥取駅周辺再整備の具体的な計画について、実務的な議論を推し進めていくことをねらいとする。
- 今年度は3回程度の開催を予定し、来年2月頃を目途に中間まとめを予定。
- 有識者、民間事業者、行政等による議論に加え、若者・子育て世代ワークショップの意見も踏まえながら検討を進める。

■ 今年度の進め方



R7.2月頃 交通ターミナル部分、賑わい広場部分の
機能・配置計画等中間まとめを実施

■ 鳥取駅周辺再整備に係るサウンディング型市場調査の実施方針

- サウンディング型市場調査は、民間事業者を対象に本事業への参加意向や興味関心がある機能・業務など整備計画を検討していく上での意向調査を実施予定。
- 今年度は、全2回の調査を予定しており、第1回目では公開型・対話型形式による調査を実施し、その結果を受けて、第2回目では、非公開で、より踏み込んだ内容について意向を調査予定。

第1回サウンディング調査(8/2)

<公開型・対話型のサウンディング調査>

◆ 目的

- ① 本事業への参画意欲や、関心のある施設の機能・業務の意向、課題、要望を把握

◆ 実施方法

- ① 申込者に対して、ヒアリングシートを事前配布
- ② 当日、対話型での調査を実施(公開)



▲ 公開型のイメージ

第2回サウンディング調査(11月中旬)

<非公開ヒアリング・アンケート形式を予定>

◆ 目的

- ① 第1回サウンディング調査結果を踏まえ、民間収益事業の可能性やその内容など踏み込んだ意向を把握

◆ 実施方法

- ① 個別事業者へのヒアリングもしくはアンケート形式による調査を検討中



今後も
継続し
て対話
を実施

2) サウンディング型市場調査について

■ 第1回公開サウンディング調査について

○第1回目の公開サウンディング調査には、多種多様な業界から15社が参加し、意見を伺った。

■ 実施概要

区分	実施概要
主 催	鳥取市
実施日時	8月2日(金)15:10開始
実施方法	対面形式(オープン型)
会 場	市役所本庁舎6階 会議室6-5~6-8
募集方法	市公式HP、県公式HP(鳥取県PPP/PFI推進地域プラットフォーム)で申込書、ヒアリングシート、事業説明資料を配布
募集期間	令和6年7月5日(金)~7月26日(金)
その他	鳥取県PPP/PFI推進地域プラットフォームセミナー ・日時:8月2日(金) 13:00~14:40 ・会場:市役所本庁舎6階会議室 ・内容:内閣府、有識者によるPPPに関する講演及び県内での事例発表など

■ 実施結果

(1)参加数:15社



▲ 当日の様子01



▲ 当日の様子02

2) サウンディング型市場調査について

○参加事業者に対し、順番に「若者や子育て世代が集い、楽しめる民間施設・機能/その進出可能性・条件・リスク」「ワクワクが50年持続するためのアイデア」について伺い、期待感や参加意欲、懸念点などについて伺った。

5

(2) 主な意見

分類	調査結果 総評
若者や子育て世代が集い、楽しめる民間施設・機能/その進出可能性・条件・リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取市内に未出店の<u>シネコン(映画館)</u>は若者の集客に関して、非常に期待できる。 ・若者のニーズとして期待が高い、<u>おしゃれなカフェや書店、図書館などの賑わい施設の出店</u>は十分効果的であると考えている。 ・山陰地方での民間を中心とした<u>中心市街地の活性化</u>の取組実績を有しており、決済・ポイント等の購買データを活用した若者の集客のデータ分析などと併せて、協力できると考えている。 ・文化施設等のホール機能については、大型コンテンツを誘致し続けることは困難であり、規模の大きすぎる施設は苦勞する。<u>施設規模が大きくなり、フレキシブルに対応できる作り</u>が望ましい。 ・<u>若者・子育て世代を呼び込む施設の運営ノウハウ</u>を活かし、駅での待ち時間を有効に活用できるちょっとした施設の導入も検討したい。 ・交通事業者としては、<u>駅に魅力を感じ若者が集える空間</u>としていく必要があり、<u>魅力を感じる歩行空間</u>、二次交通への<u>乗換の利便性・安全性への配慮</u>を考えていきたい。 ・エネルギー事業者として、<u>脱炭素の観点で関わっていく使命感</u>を持っている。 など
ワクワクが50年持続するためのアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>地元密着で人を増やすには、働き手を増やし、若い頃からイノベーションを勉強する機会や機能も重要</u>。 ・そのためには、<u>エリアマネジメント</u>や都市部で実績がある<u>アーバンデザインセンター(UDC)</u>などの持続させるための<u>組織・仕組みが必要</u>。 ・地元の方には、鳥取駅で全国の食材が手に入り、一方で県外からの来訪者は、<u>地元食材や魅力を楽しめるコンテンツなどが有効</u>。 ・地方都市は、人口が減ってくる中で、<u>如何にして人流を生み出すかが重要</u>となる。県外からの人の流れを呼び込むには、<u>購買データ、人流データを活用しながら、考えていくことも必要</u>。 ・50年前の鳥取駅整備でも市民はワクワクしたはずであり、世の中のニーズや人の流れなども常に変化していく中で、<u>変化に柔軟に対応できる余地や可変性を持った施設整備も考えておくことが重要</u>。 など

4) 若者や子育て世代を対象にしたワークショップ

開催趣旨：鳥取の未来を担う若者の意見やアイデアを鳥取駅周辺再整備に反映していくために、「学生や若手社会人・子育て世代」を対象としたワークショップ。若者等が「どのようなライフスタイルを送りたいのか」という切り口から課題を抽出し、その解決に資する鳥取駅周辺に必要な施設・機能を検討する。

対 象：Aグループ：子育て世代（小学生以下の子どもがいる世帯）
Bグループ：高校生・大学生等（短大・専門学校・大学院生を含む）・若手社会人（29歳以下）

子育て世代（Aグループ）開催経過

開催日時 令和6年9月14日（土）13:30~15:30
開催場所 鳥取市福祉文化会館4階 第1会議室
（鳥取市西町2丁目311番地）
参加者数 14名（参加申込17名・当日欠席3名）
主な流れ 市による鳥取駅周辺再生基本計画の説明
有識者（阿部先生）によるインプットトーク
参加者によるワーク



若者世代（Bグループ）開催経過

開催日時 令和6年9月28日（土）13:30~15:30
開催場所 鳥取市福祉文化会館4階 第1会議室
（鳥取市西町2丁目311番地）
参加者数 20名
主な流れ 市による鳥取駅周辺再生基本計画の説明
有識者（山口先生）によるインプットトーク
参加者によるワーク



○子育て世代、若者世代から共通して出た意見

- ・ 駅から商店街に行きやすい構造がよい。
- ・ 歩行者にとって使いやすい空間になってほしい。
- ・ バラバラではなく、大きな駐車場がほしい。
- ・ 緑の空間（芝生など）、広場がほしい。
- ・ 映画館などの遊べるところがほしい。

○上記意見のほか各グループから出た意見

子育て世代（Aグループ）

- ・ 市民が交流しあえるスポットが欲しい。
- ・ いろんな利用目的で楽しめる「市民のための場所」があるといい。
- ・ 子どもたちが遊べて、親が休めるようなスポットが欲しい。
- ・ 雨の日でも子どもたちが遊べるスポットがあるといい
- ・ 室内でこどもが体を動かせる場所が欲しい
- ・ コンパクトでいいのでスポーツスポットが欲しい
- ・ 駅南は静かで落ち着いた空間、駅北は賑やかで盛り上がる空間になるといい。

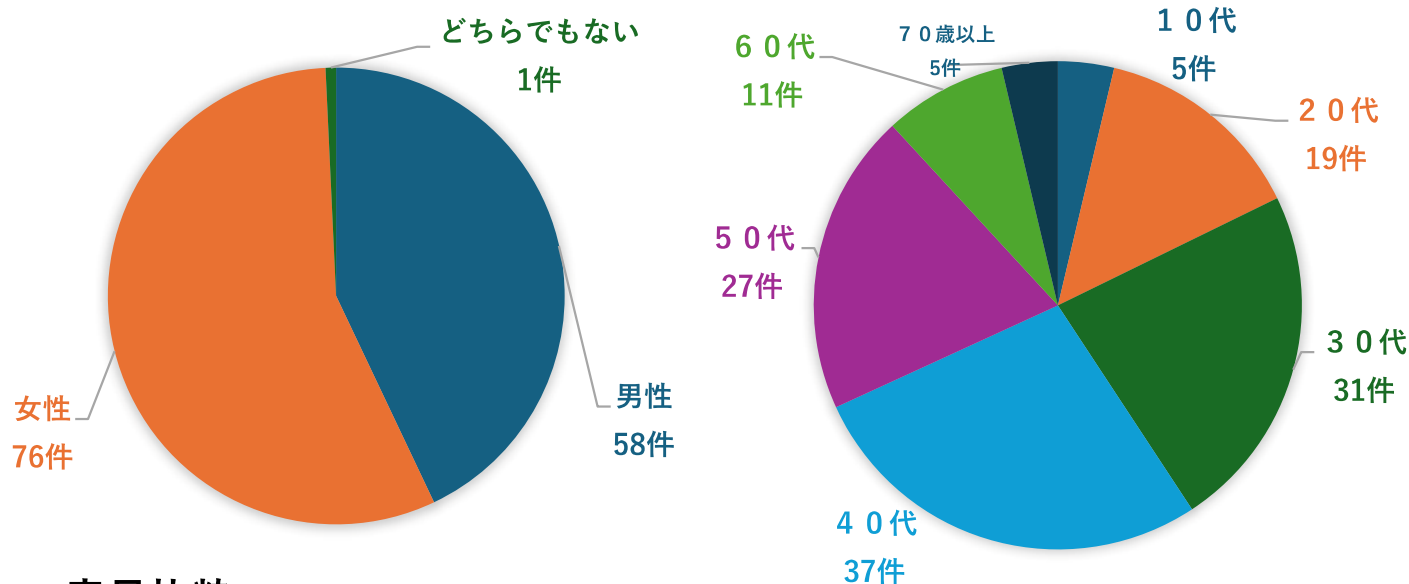
若者世代（Bグループ）

- ・ 車道を小さくして、歩道の拡幅や自転車専用レーンを追加してほしい。
- ・ 待ち合わせの目印になるようなオブジェクトが欲しい。（ハチ公前みたいな）
- ・ 自習スペースがほしい。
- ・ ゆっくり座れる場所がほしい。
- ・ 今は駅に行く目的がない。
⇒ 駅が目的地になるような機能が必要。
- ・ ライブハウスやサウナなどの娯楽施設がほしい。
- ・ 定期的なイベントを開催してほしい。
- ・ 喫煙所は駅を出てすぐじゃないほうがいい

第1回の意見等をもとに、11月中に駅周辺でのヒアリング調査及び高校生へのアンケート調査を実施。この結果を踏まえ第2回ワークショップを12月に開催します。

市民からの意見募集について

鳥取市に寄せられた意見（8/20～9/30現在 135名）



主な意見の件数（大別） 計237件

映画館・シネコン	40件
駐車場	34件
商業施設・ショッピング	23件
子どもと過ごす空間	16件
飲食店	15件
アミューズメント施設	11件
カフェ	8件
緑・環境	7件
書店	7件
ライブハウス・ホール	4件
平面横断・歩行空間	5件
駐輪場	4件
その他	63件

意見抜粋

- 鳥取市は雨や雪が多くて、雨の日に子供を遊ばせる場所がない。
天候が悪くても、市民が老若男女問わず集まることのできる施設。（40代女性）
- 将来世代が歩いて楽しく暮らせるゆとりある駅周辺を作っていただきたい。
道路や自動車中心の街中ではなく、歩行者中心のまちづくりを期待。（40代男性）
- 再整備する際は、町全体がおしゃれで統一感があるようなデザインに（30代女性）
- 鳥取市民は車生活なので、駅周辺に使いやすくたくさん停められる駐車場を作ること、駅周辺の活性化につながると思います。（30代女性）
- 駅前だけでなくアーケード街などの活用で、人が広がるような街づくりが必要（20代男性）
- 地域住民、駅の利用者、観光客の様々な人たちが利用しやすく、ワクワクするような場所にして欲しい。
市内にない大型映画館や鳥取らしさを象徴するような多目的広場や芝生の広場、足湯スペース、地域の美味しい特産品が食べれる飲食店やゆっくり過ごせるカフェがほしい（50代女性）
- 今の計画はとても楽しみです、駅前交差点は絶対スクランブル交差点がいい（40代男性）

引き続き、随時、意見やアイデアを受け付け、整備計画に反映していきます。

5) 鳥取駅周辺リ・デザイン市民フォーラムの開催について

- 開催日時 令和6年10月27日(日)10時~12時
- 開催場所 とりぎん文化会館 第1会議室、第3会議室
(鳥取市尚徳町101-5)
- 参加者 約160名
- 開催内容

テーマ「ワクワクが止まらない、
駅からはじまるミライのカタチをデザインしよう」

◇ 基調講演

駅周辺の活性化や地域の住民との協働による広場空間の活用、市民と協働したまちづくりの事例を紹介

講師:山崎 亮 氏

(studio-L代表/関西学院大学教授/コミュニティデザイナー)

◇ パネルディスカッション

市民とつくる駅前のミライのカタチについて、地域の方々を加えてディスカッション

ファシリテーター:齋藤 浩文 氏(株式会社まるにわ)

パネラー:山崎 亮 氏、谷本 圭志 氏、渡世 唱子 氏、
小谷 峻一 氏、深澤市長

- 主催 鳥取市・鳥取市中心市街地活性化協議会
- 協力 鳥取商工会議所
- 後援 鳥取大学



▲ 当日の様子01



▲ 当日の様子02

6) 第1回 駅まち空間デザイン検討部会

○第1回検討部会では、交通実態調査結果・ワークショップの実施状況等の報告の後、1/1500模型を見ながら意見交換を行った。

区分	実施概要
開催日時	10月13日(日)14:00~16:00
参加者	学識経験者:山口先生、阿部先生、神田先生、吉野先生 JR西日本:開発戦略担当部長、交通まちづくり課長ほか 中心市街地活性化協議会:齋藤プロジェクトマネージャー 国:鳥取河川国道事務所副所長ほか 県:交通政策課長、道路企画課長、道路企画課課長補佐 市:都市整備部長、都市整備部関係課長 設計チーム:復建調査設計、設計領域
会議内容	○ 交通実態調査結果及びワークショップの実施状況等について報告 ○ 基本計画のレビューや今後の進め方に関する設計チームからの説明を踏まえながら、意見交換を実施



■ 基本計画のレビュー① 集約型交通ターミナル機能の配置案

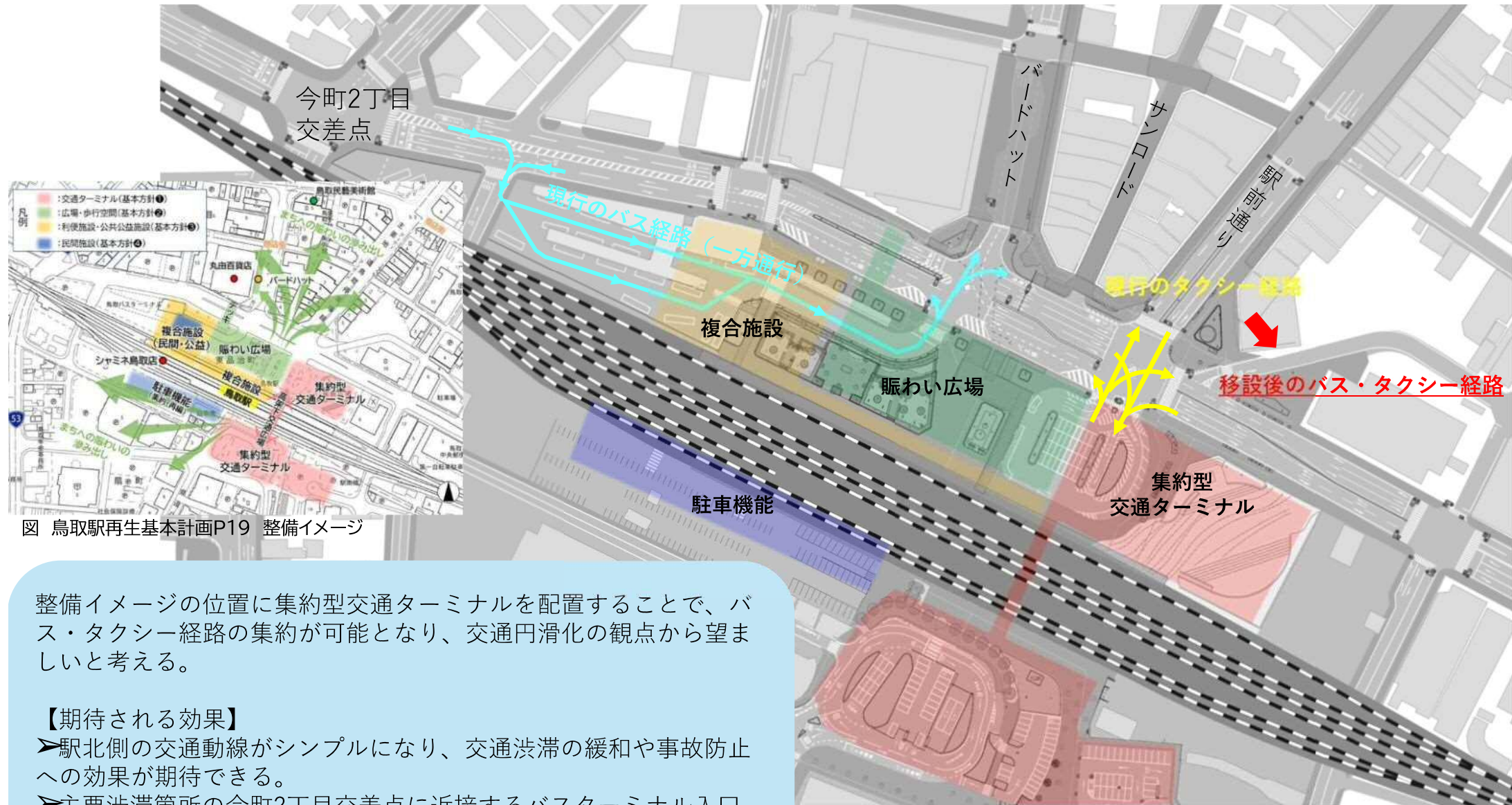


図 鳥取駅再生基本計画P19 整備イメージ

整備イメージの位置に集約型交通ターミナルを配置することで、バス・タクシー経路の集約が可能となり、交通円滑化の観点から望ましいと考える。

【期待される効果】

- 駅北側の交通動線がシンプルになり、交通渋滞の緩和や事故防止への効果が期待できる。
- 主要渋滞箇所の今町2丁目交差点に近接するバスターミナル入口部の歩行者・自転車の安全性向上や渋滞緩和が期待できる。

■ 基本計画のレビュー② まちとの繋がりについて(歩行者動線)



イメージパースでは、北口とまちとの繋がりについて、現状に対して歩行者デッキのみが追加されている。

【市民からのご意見】 ※ 若者や子育て世代を対象にしたワークショップ、市民からの意見募集より抽出

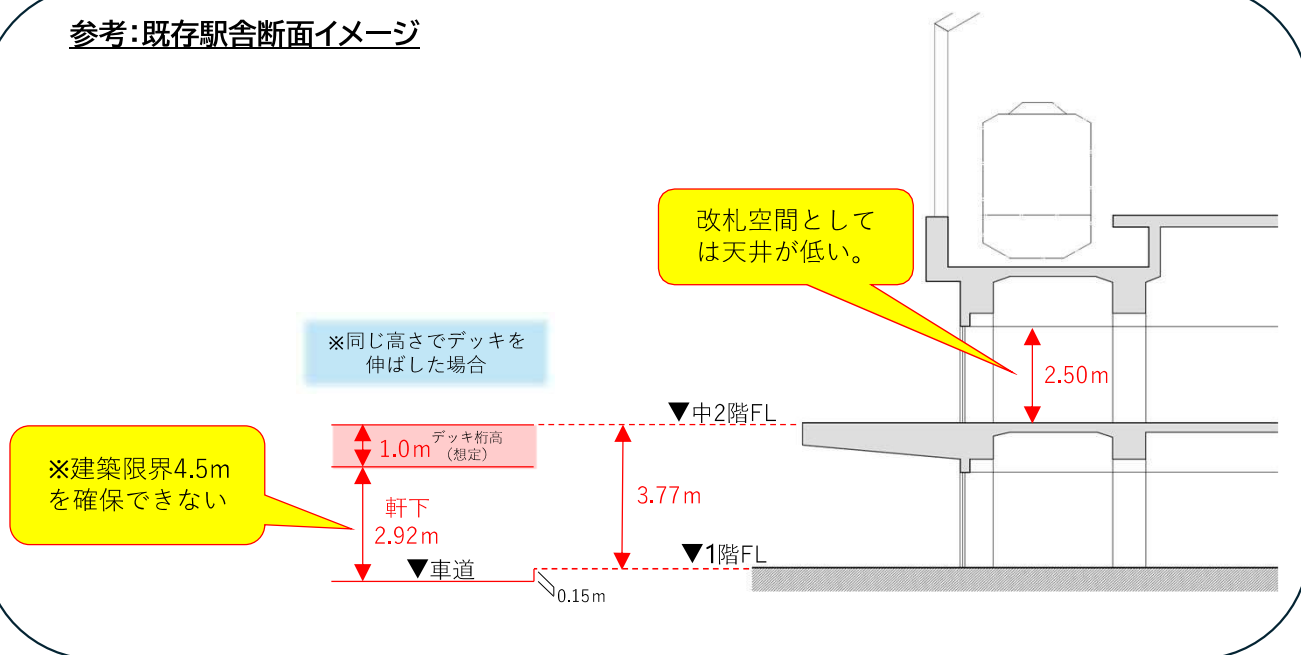
- 駅から商店街に行きやすい構造がよい。(ワークショップ)
- 歩行者にとって使いやすい空間になってほしい。(ワークショップ)
- 将来世代が歩いて楽しく暮らせるゆとりある駅周辺を作っていただきたい。(ワークショップ)
- 道路や自動車中心の街中ではなく、歩行者中心のまちづくりを期待。(意見募集)
- 駅前だけでなくアーケード街などの活用で、人が広がるような街づくりが必要(意見募集)
- 今の計画はとても楽しみです、駅前交差点は絶対スクランブル交差点がいい(意見募集)

まちとの関係性構築のためには、**地上動線**をメインとした歩行者中心の駅前広場整備が望ましい。

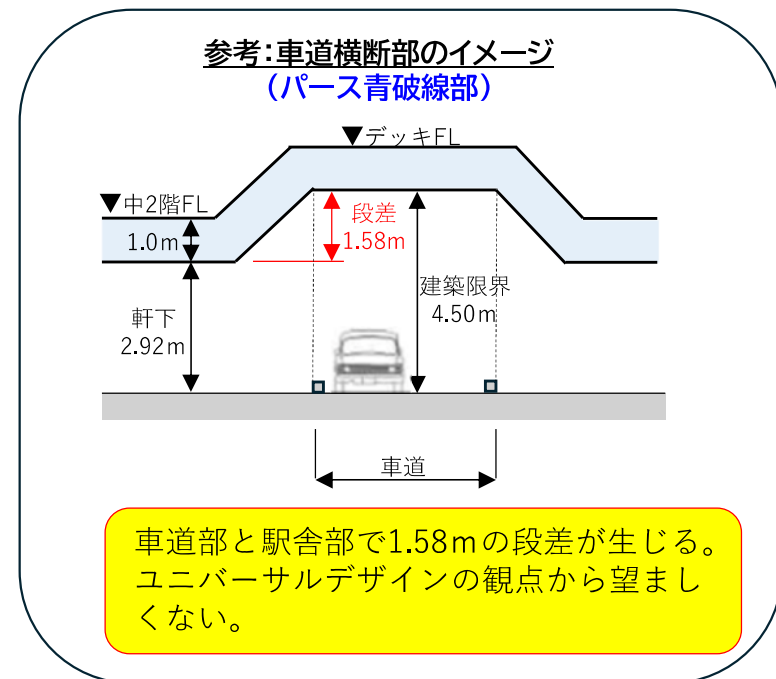
■ 基本計画のレビュー③ ペDESTリアンデッキについて



参考: 既存駅舎断面イメージ



参考: 車道横断部のイメージ (パース青破線部)



※建築限界... 車道の上空4.5m、歩道の上空2.5mの範囲内に障害となるものをおいてはならない。(道路法第30条、道路構造令第12条)

■整備コンセプトについて

公共交通の
利便性向上へ

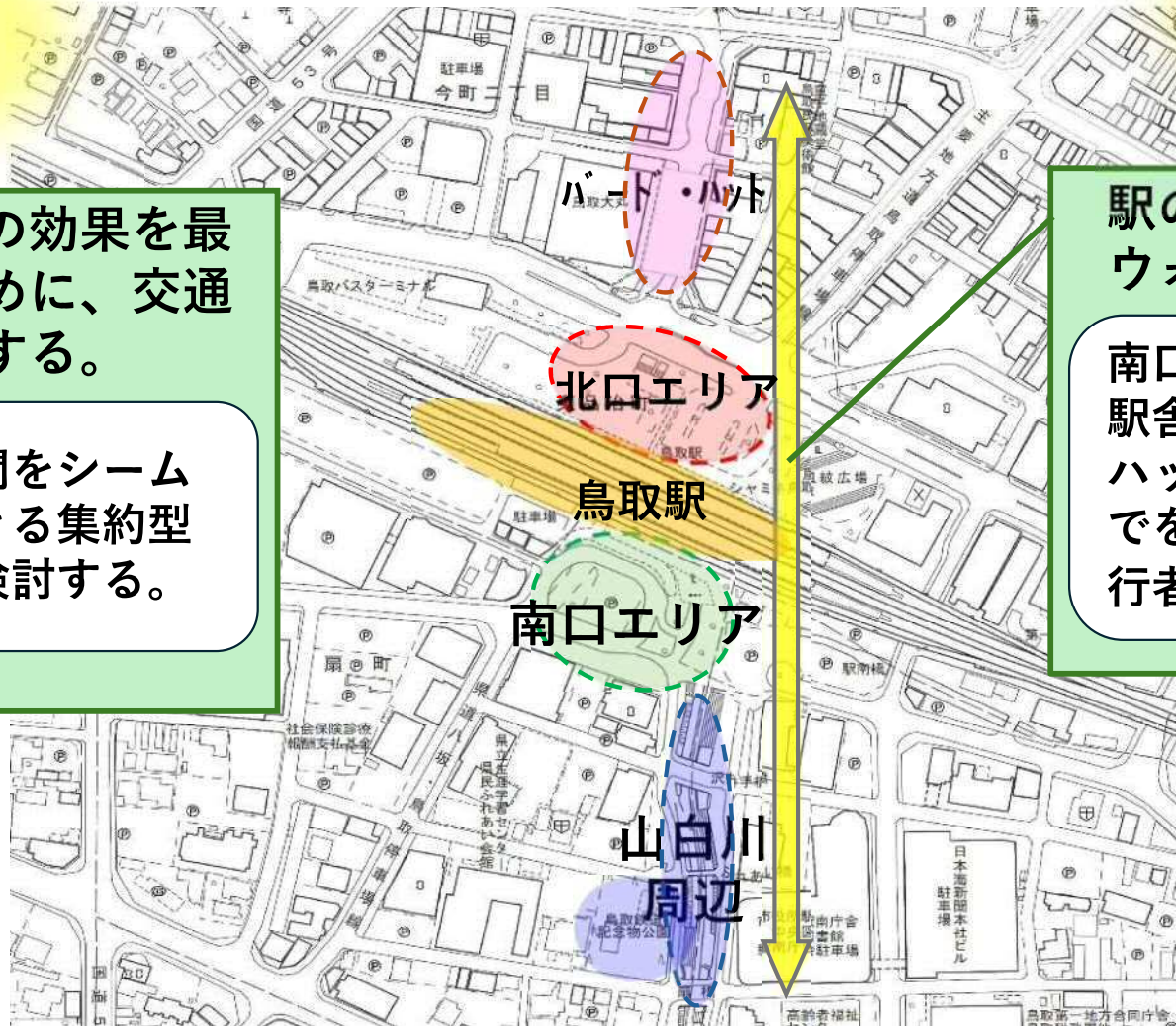
人を中心とした
空間整備へ

道路ネットワークの効果を最大限発現させるために、交通拠点の整備を検討する。

多様な交通モード間をシームレスに乗換えができる集約型交通ターミナルを検討する。

駅の南側と北側をつなぐ
ウォーカブルな軸を検討

南口の山白川から駅南口、
駅舎、駅北口、ボード・
ハットを経て、まちなか
までをシームレスに繋げる歩
行者動線を創出する。



ウォーカブルイメージ

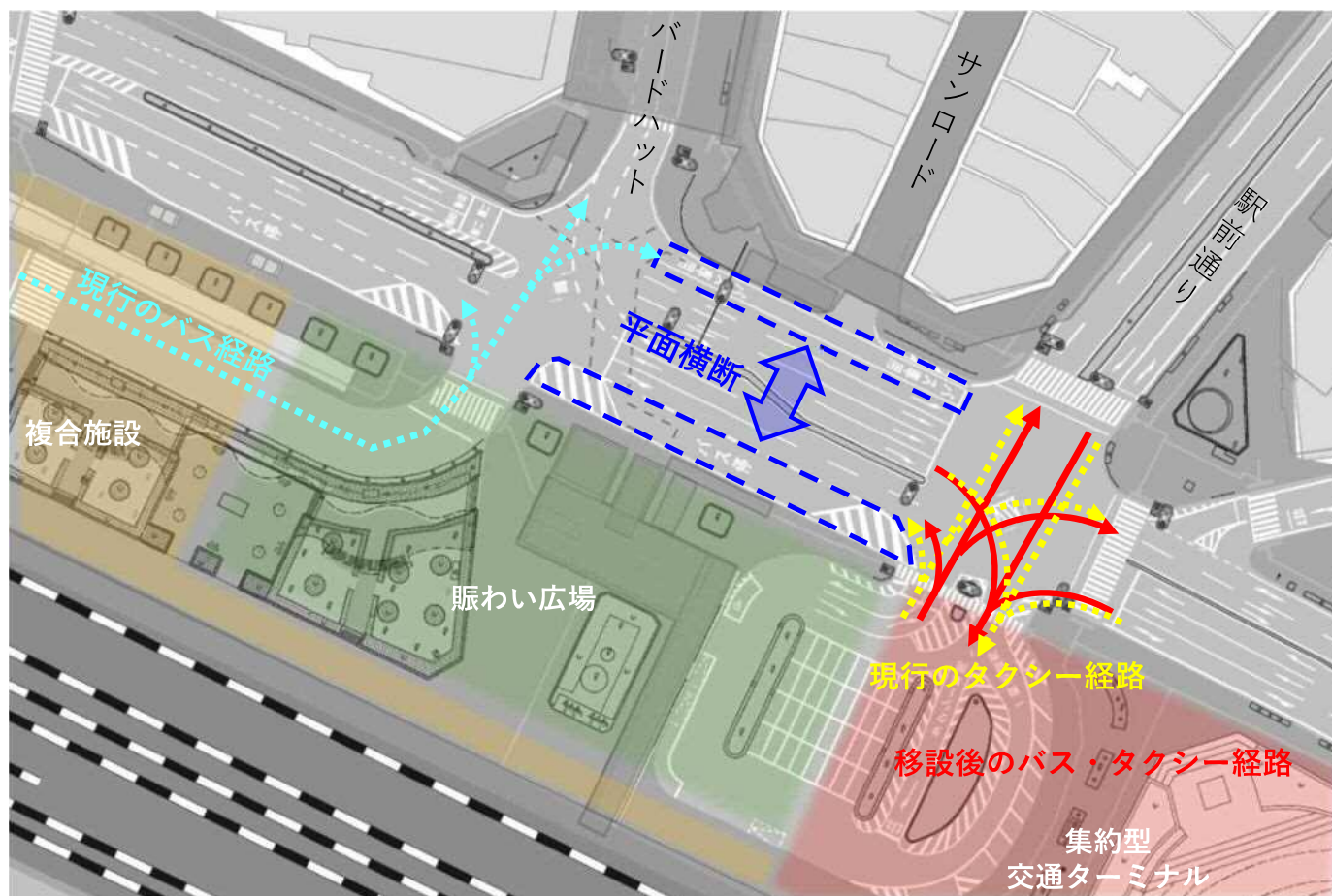
■ レイアウト案について 平面横断(1/2)

○若者とのワークショップで頂いた意見をもとに、**まちなかとの連続性**を意識した回遊性や、子供からお年寄りまで、市民が安心して回遊できる歩行者ネットワークの創出に繋げるため、地上動線をメインとした**歩行者中心**の駅前広場整備を検討する。

【検討案】横断歩道設置

整備イメージの位置に集約型交通ターミナルを配置した場合、駅前道路の**バス専用左折レーン**、**バス停**を廃止することで**減車線化**が可能となる。

横断歩道の設置の障害となっていた広い道路幅員が、東側の横断歩道部と同程度となるため、検討の余地があると考える。



■ レイアウト案について 平面横断(2/2)※ 過年度の横断歩道設置検討について

○令和元年度に横断歩道の設置・スクランブル交差点化について検討している。過去のデータや検討の経緯についても確認しながら検討を進めていく。

鳥取駅前北口交差点横断歩道設置検討（令和元年度）

調査概要

鳥取市新庁舎移転に伴い、鳥取駅前北口交差点の自動車交通量及び歩行者、自転車の利用が変化することから、鳥取駅前北口交差点に横断歩道を設置した場合とスクランブル化をした場合、交通処理上どのような影響があるか把握するため交差点交通処理検討を実施した。

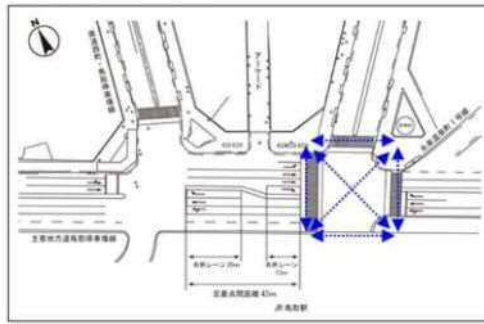
交差点解析結果

横断歩道設置、スクランブル化のいずれも交差点需要率、交通容量比とも基準値内に収まっており、一定程度の渋滞が発生する可能性はあるが、計算上は交差点の交通処理は可能との分析結果を得た。しかし、当該交差点には近くに信号交差点（市道駅前太平線）があり、滞留長から判断すると、隣接交差点へ滞留した交通による先詰まりの可能性が懸念される。

<西側部分の横断歩道設置>



<スクランブル化>



【横断歩道設置に至らなかった理由】

検討結果を裏付けるため、実証実験が必要と考えていたが、コロナ禍で外出が控えられる中、有効なデータが得られないため、実証実験が困難となった。

★令和元年度の検討条件からの変更点

- 1) バスターミナル位置変更によるバス交通量の低下
- 2) バスターミナル位置変更に伴う減車線化による横断距離の短縮
- 3) バスターミナル位置変更による信号交差点一体化の可能性（交差点単純化による安全性向上と信号現示短縮）
- 4) バードハット内道路（市道駅前太平線）の構造変更を併せて検討

【今後の課題】

上記1)～4)の前提条件の変更を踏まえて、歩行者需要量の予測・確認、道路構造の見直し、実証実験の実施などの検討を含め、関係機関との協議に着手する。

■ 協議結果総評と今後の予定

協議結果 総評

- 駅コンコースの南北両出口に広場を配置することで、北側はバードハットやサンロード、南側は山白川の水辺空間とつながり、**人を中心とした空間**の創出が期待できる。
- 公共交通の利便性向上のため、集約型バスターミナルの配置にはより具体的な検討が必要。一般車両との区分や駐車場などもあわせて検討する必要がある。
- 駅北側の県道(鳥取福部線)を**平面横断**してまちなかとの繋がりを高めていくといった方向性や、人中心の空間づくりを基本コンセプトに、今後関係者間で議論を深めることについて概ね合意を得た。

第2回 駅まち空間デザイン検討部会に向けて

- 交通実態調査結果から駅前広場、交通ターミナル部分の規模算定を行い、部会で報告する。
- 本会議や第1回部会で頂いた意見を基に、より詳細な検討を行っていく。

今後の予定(進捗状況に応じて随時)

- 駅北側の県道(鳥取福部線)の**平面横断**の可能性について、関係機関(道路管理者、県警、交通事業者等)と協議を行う。
- 交通に関する実証実験の検討を行う。
- 交通実態調査結果をもとに検討する配置計画案について交通事業者との協議を行う。